

学校だより

2022年7月半ばから 8月までの資格試験一覧

この期間に日専校生が取り組んだ資格・検定試験の一覧を記載する。

- 7月6日 技能士電子機器組立て 作業3級実技(2年電気科)
- 7月7日 技能士普通旋盤作業2級実技、フライス盤作業2級実技(3年機械科)
- 7月10日 技能士電子機器組立て 作業3級学科(2年電気科)
- 7月10日 技能士数値制御旋盤作業3級学科(2年機械科)
- 7月13日 技能照査学科(3年機械科)
- 7月16日 危険物取扱検定(全学年)
- 7月21日 技能士数値制御旋盤作業3級実技(2年機械科)
- 8月28日 技能士電子機器組立て 作業2級学科(3年電気科)

技能士電子機器組立て 作業3級

技能士電子機器組立て作業3級の資格取得をめざし、電気科2年生31名は実技試験および学科試験に臨んだ。7月6日に本校の実習棟電子実習室で行われた実技試験では、試験



本番の緊張感からか、普段の訓練通りに作業を進められず、苦勞していた生徒がいたものの、結果的には訓練で習得した技能をそれぞれの生徒が十二分に発揮することができ、全員が課題を提出することができた。

また、7月10日に本校の特別教室で行われた学科試験では、受験者全員が日頃の学習成果をしっかりと発揮することができた。試験終了後の生徒の表情には、安堵感と受験結果に対する確かな手応えを感じている様子が伝わってきた。今回の受験結果は、8月26日に茨城県職業能力開発協会HPに掲載されるが、結果を楽しみにしている。

技能士普通旋盤作業2級、 フライス盤作業2級

7月7日に、本校の機械実習場に



て3年機械科29名の生徒のうち、23名が国家検定普通旋盤職種、6名がフライス盤職種の資格取得を目指して試験に挑んだ。フライス盤2級受験は本校初の挑戦である。これらの資格を取得するにはレベルの高い汎用機の加工技術を要するため、週12時間の実習授業内では、高校生にとって極めて難易度が高い試験となる。そのため、生徒たちは、放課後の時間を利用して、担当職員の見習い授業を積極的に受けるなど、合格を目標に日々練習に励んだ。

本番当日は職業能力開発協会担当者の立会もあり、通常の練習と異なる雰囲気の中試験に臨んだが、3年機械科の生徒達は平常心で作業を進め、練習の成果を存分に発揮し、大きなトラブルやミスも無く終了出来た。合格発表は9月30日にある。

救命救急講習会

安全の授業の一環で「普通救命講習会」として、日立消防署より講師をお招きし、心肺蘇生、AEDなどの応急処置の講義を受講した。講習では、緊急時の応急処置に関する知識とスキルを身につけることができ、とくにAEDは使い方を見たり聞いたりしたことがあっても、実際に操作したことがある人は少ない。講習ではAEDの使い方や心肺蘇生法を実際に体験した。応急処置の知識と技術を習得しておけば、いざというときに慌てずに対処できるようになる。

3年電気科 安全衛生PJ 益山 柊

僕は安全の授業で救命や熱中症についての「知識」を沢山学びました。しかし、実際に行動を起こすとになるとパニックになってしまい、何をすればいいかわからなくなってしまう。これから工場に行つてから熱中症等が起こることもあるかもしれない。その時に今回体験したことが素早く、適切に対処するためには必ず役に立つと考えています。

また、最後に見た、熱中症で死者が出た際の友達や先生の話をもとめた動画でも、「何をすればいいかわからなかった」と言っていたのを見て、もしAEDが広まっていれば、もし熱中症に対する正しい知識を皆が知っていたら、と考えるととても



胸が締め付けられました。今回のこの気持ちや学んだことを忘れずに残りの高校生活や工場での活動を行っていきたいと思います。

高校野球全校応援

夏の全国高校野球茨城大会が7月9日から始まり、96校、93チームが甲子園出場をかけて戦った。今年の大大会は声を出しての応援はできないが、3年ぶりに入場制限がなく、スタンドにプラスチックや観客を入れて実施された。日専校(科学技術学園高校日立)も応援団と吹奏楽部が練習を重ね、全校応援の準備を進めた。

結果は、7月10日1回戦、日本ウェルネス茨城高校戦が11対5で勝利、7月14日2回戦では、夏の全国大会16回の出場、優勝1回準優勝1回を(5頁へ続く)



(4頁の続き)
 誇る、強豪常総学院高校に延長10回サヨナラ勝ちを収めた。続く、7月17日3回戦、日立工業高校戦でも6対2で勝利、10年ぶりに4回戦に進出した。ベスト8をかけた7月20日4回戦では、2017年、18年と茨城大会を連覇した土浦日大高校と対戦した。3対13で負けはしたが、選手、応援団、全校生徒職員は一致団結し、精一杯プレー、応援をした充実感で満たされた。

3年機械科 野球部主将 上田 琉生
 お忙しい中、野球部を応援してくださり、ありがとうございます。今年の夏の大会では私達が目標にしていた県ベスト4には届きませんでした。私達のベストを尽くせて、とても満足しています。秋、春と結果が残せない中で挑んだ夏の大会では、チームの中で「夏の大会ではな

7月19日2時限目より、水泳大会を実施した。昨年同様コロナ禍もあって、控えの選手や応援のため、食堂にてライブ配信を行い、密を避けた状態で実施した。個人競泳は各クラスとも実力者が出場しており、接戦が繰り広げられた。また水中的当てでは、巧みな体さばきから



水泳大会

にかを起こしてやろう」という声が出てきました。皆が必死に練習をし、練習試合では劣勢であっても粘り強く戦って逆転をすることで、チームが一つになってきました。その結果がこの大会だったと思います。

私達3年生は高校野球が終わっても、これからが社会人の始まりなので、今まで野球で学んできたことを次は社会に出て役立てるように頑張っていく予定です。



7月21日、今年度の第1回目となるオープンスクールを開催した。今年度はコロナの影響が緩和されたことに加え、電気・仕上げの実習体験が復活したことも相まって比較的早

オープンスクール

この大会を制したのは、個人クロールで1・2位独占やムカデ競争でも2組決勝進出などコンスタントに得点を重ねた3年機械科が総合優勝した。第2位が3年溶接科、第3位が2年電気科となった。3年機械科は2位に150点の差をつけるぶつちぎりの優勝であった。また3年生にとつては、工場配属前の最後の学校行事であり、思い出の1シーンとなったことだろう。

夏休み前最後の授業日に、規範意識の向上や学校外での生活に対する意識付けとして講話を実施した。茨城県警本部警務部警務課より、2名の講師に来校いただいた。今回は「命の大切さ」をテーマに、被害者やその家族の目線での内容で「交通事故」「いじめ」「ネット犯罪」など、高校生身の回りで起こっている諸問題

防犯講話

い時期から参加希望が集まった。最終的には33組の参加があり、校内見学および実習体験を行った。校内見学では密状態を避けるため、3箇所に分かれてスタートするなどの策を取った。各所での説明は主に生徒が行い、質問も適宜受け付けた。また、実習体験では作業を全面的に指導するなど、ほぼ生徒が主導する形で行った。

終了後のアンケートを見ると、本校生徒に対する好意的なご意見が多数寄せられた。特に、親切かつ丁寧な対応やコミュニケーション能力に対するお褒めの言葉が多かった。この結果が示す通り、オープンスクールを通じて、生徒たちはしっかりと対人スキルを身につけ、大きな成長を遂げることができたといえる。今後、主力は3年生から2年生にシフトするが、この機会により多くの生徒に関わってもらい、各人の成長に繋げてほしい。

**若年者ものづくり競技大会
メカトロ職種出場**
 7月27日、28日の両日、広島県立広島産業会館西館に於いて第17回若

報道で「このような事件があった」という事実を知ることや、生徒指導担当から実際に起こっている高校生のトラブルについて生徒へ伝達することはあっても、被害者目線での部分については、なかなか触れる機会がない。そのため、今回の講話は考察の角度を変えた内容であり、考えさせられることが多い内容であった。法(ルール)を理解して規範意識を高めるとともに、常に相手の気持ちや周りの人のことを考えて行動できる徳の高い生徒になって欲しいと思う。



(5頁の続き)

年者ものづくり競技大会メカトロ職種が実施された。3年電気科、技能五輪部に所属する川部直生と新田隼生が出場し、26チーム中第4位と健闘し、銅メダルを獲得することが出来た。

競技では2種類の課題があり、第一課題の「生産設備を仕様書により一部改造」は順調に通過したが、第二課題の「第一課題完成装置の改造メンテナンス」は制約時間2時間内に完成させることが出来なかった。結果、第4位となり、念願の金メダルには届かなかった。

両名とも緊張から容易な誤りは多少あったものの、最後まで諦めずにベストを尽くして頑張った。将来の技能五輪大会に向けて、いい経験を積むことができた。来年こそ、念願の金メダルを獲得できるよう、培ったノウハウを活かし訓練を行ってきたい。

3年電気科 技能五輪部 川部 直生

2年生から、技能五輪部として約1年と半年間メカトロニクスを訓練してきました。僕はその訓練で学んできたことを胸に「今までで最高のパフォーマンスをする」という目標で大会に臨みました。ソフトを担当して、「あの時こうしておけば」と思う点がいくつもあり、まだまだ改善できる点がたくさんあると感じました。その点を改善できるように、

今後の訓練に取り組み、事業所で活躍できるよう備えていきます。僕がここまで成長することができたのは、顧問の先生をはじめ、多くの人が支えてくださったからです。本当にありがとうございます。

3年電気科 技能五輪部 新田 隼生

今回の若年者ものづくり大会では、悔しい結果にはなりましたが、今までやってきた訓練の成果を発揮することができ、自分の中ではベストを尽くすことができたと思っています。それと同時にまだまだ自分に足りないところやこれからの課題を見つけてきたので、この経験を生かして次に繋げられるように日々努力をしていこうと思います。



若年者ものづくり競技大会

フライス盤職種出場

7月26日、27日の2日間、愛知県

ポリテクセンター中部に於いて開催された、第17回若年者ものづくり競技大会フライス盤職種に3年機械科の黒木海希が会場し、参加者28名中第2位の銀賞を受賞した。日専校として今年初挑戦となったこの職種において、大会仕様設備が無い事や技能検定受験が並行していたこと、大会へ向けた訓練時間が多く確保できない状況下で、優勝は逃したものの大健闘の結果であった。

競技は、製作標準時間3時間、2部品を製作する課題であり、技能検定2級に類似した形状であった。競技会独特の雰囲気から、緊張した様子も見受けられたが、全体的には落ち着いて作業を進められた。途中、訓練通りに行かなかった所もあったが、冷静に対処できた事で好成績に繋がった。今後の技能五輪や会社生活を送る上で今大会の経験は大きい。今後も継続的に挑戦し、より良い人材育成を図っていききたい。

3年機械科 黒木 海希

今回の大会では、先生をはじめ、様々な方々のおかげで銀賞を受賞することができました。目標としていた「自分のできることを最大限に発揮し、納得のいく課題を提出すること」は達成できたと思います。しかし、あともう少しで金賞だったと思うと悔しさの方が大きくあります。この悔しさをバネに技能五輪で結果を残せる様に頑張っていきます。



の大会を通じての学びや貴重な経験を今後活かす、事業所で活躍できるように頑張ります。

2年生工場見学

7月27日、28日、(株)日立ビルシステム水戸事業所の見学に2年生64名が参加した。新型コロナウイルス感染者が急増している状況の中、事業所の関係者の皆様のご理解とご協力により実施することができた。

両日とも、事業所の建屋や製品・部品の製造工程、技能五輪選手の活躍などが収録されたビデオ視聴の後、日専校の先輩の案内で電気系・機械系・溶接系の職場および国産第1号電車・GITOWERを見学し、質疑応答による意見交換を行った。

コロナ禍の影響により1年時に工場見学ができなかったため、今回を楽しみにしていた生徒からは多くの



質問が出された。職場に必要な技能技術力・人間力などについて、いただいたアドバイスを生かして、配属までの約1年間の学校生活で多くのスキルを身に付けてもらいたい。

技能五輪全国大会二次予選会

技能五輪部出場

7月30、31日に渡り第60回技能五輪全国大会旋盤職種二次予選会が3会場(日立工業専修学校・ポリテクセンター中部・ポリテクセンター関西)にて開催された。参加者は全国の各都道府県予選を通過した総勢69名の選手達である。この中から成績上位者38名が全国大会出場の権利を獲得することとなる。

(7頁へ続く)

(6頁の続き)

本校からは、3年機械科技能五輪部所属の郡司煌都が出場した。二次予選の課題は部品数が3個で加工時間が2時間55分、2パターンの指定された組立機能に加え、単品寸法組立寸法を公差内に加工するという困難な内容である。高校生にとって極めて難易度が高いものであったが、怯む事無く本番に挑み順調に作業を進めたが、途中で重要部位に傷をつけた事による影響をリカバリーしきれず、標準時間内には加工完了することは出来たが、予選通過には至らなかった。今後、工場で更に高い技術・技能を学び、幅広く活躍出来る人材になる様成長してほしい。

3年機械科 技能五輪部 郡司 煌都

今回の二次予選会では、普段通りとは行きませんでした。標準時間内に加工することはできませんでした。本番で訓練通りの作業をすることの難しさを改めて実感しました。今後、学校ではなく工場での活動となりま



すが、今回の経験を活かし、さらなる成長を遂げて、金メダル獲得を目標に訓練していきたいです。

南極教室

8月24日本校体育館において、国立極地研究所主催の「南極教室」が開催された。「南極教室」とは、日本国内の児童・生徒が南極・昭和基地で活動を行っている南極地域観測隊員とリアルタイムで交信することにより、地球環境や地球の歴史、さらには宇宙の謎にまで迫る南極観測の現在を知ってもらい、南極を通じて地球や宇宙のことを考えてもらうことを目的とし、隊員とゆかりのある学校において、2004年から開始した取り組みである。今回の開催は、日専校電気科99卒で大みか事業所所属の櫻庭健吾氏が、国立極地研究所へ出向して第63次南極地域観測



南極教室



左が99卒櫻庭健吾氏 写真提供：国立極地研究所

隊(越冬隊)として任務につくことになり、櫻庭氏の母校である日専校での「南極教室」開催の提案をいただき、実施することになった。

当日は、生徒会が中心となり進行を行い、ドローンを利用した昭和基地上空からのライブ映像、越冬隊の日本出発から南極・昭和基地到着までの紹介映像、昭和基地における越冬隊員の各種活動内容・昭和基地内部の施設紹介等が行われ、体育館のスクリーンに映し出される映像を生徒たちは真剣なまなざしで見つめていた。また、質問コーナーでは、生徒から積極的に質問が行われ、南極・昭和基地に対する興味や関心の高さを感じられる行事となった。今回参加した生徒たちは、南極・昭和基地での日立グループの関わりについて理解を深めるとともに、地球環境について考える良い機会となったものと思う。櫻庭隊員には、生徒たちに

貴重な経験を与えて頂き感謝申し上げますとともに、今後の越冬隊員としてのご活躍を祈念する。

(日立GLS) (栃木) 従業員向け学校説明会

9月7日、日立グローバルライフソリューションズ(株)栃木事業所にて従業員向け学校説明会を開催した。事業所に於いて従業員向け説明会を開催するのは新たな試みで、現在の3年生より同事業所への就職枠が増えることをきっかけに企画された。



当日は、貴重な定時退勤日にも関わらず十数名の方に参加いただいた。たくさんのご質問もいただき、大変和やかな説明会となった。お忙しい中、開催に向けてご協力くださった栃木事業所のみなさまに心より御礼申し上げます。今後、各事業所にて学校説明会を実施していきたいと考えています。実施に協力いただけた各事業所・同窓会の皆さまはぜひ日専校に連絡をお願いしたい。

日専校職員投稿 コロナ禍の中で 鈴木みどり

保健室に誰か居るの？誰？と思う人もいると思うので、始めに自己紹介します。日専校で保健と衛生を担当している鈴木みどりで。

コロナ禍となって3年目になりましたが、学校ではクラスターが発生することもなく生活しています。それは、日頃から感染予防対策としての行動や、校内・寮内の消毒を生徒職員の方々が行っていらっしゃるおかげだと感謝しています。

この感染予防対策のおかげで、例年、日専校では感染性胃腸炎やインフルエンザが流行していたのが、現在は、感染性胃腸炎の集団感染者はなく、インフルエンザは感染者ゼロとなっております。新型コロナウイルスは、現在、第7波でいつまで続くか先が見えない状況ですが、新型コロナウイルスに限らず、感染予防対策を続けていると有効ですので、うつらない・うつさないをモットーにして、今後も継続して下さい。これからもコロナ禍で、楽しみにしていた行事が中止になったり、生活面でもたくさんさんの制約がありますが、それでも仲間と過ごす高校生活を、思う存分楽しんでもらいたいと思っています。 追伸・保健室にはデジタル身長計などもあるので、体調が悪い時ばかりではなく、自分の身体的成長を確認しに立ち寄ってみて下さい。

部活訪問

ソフトテニス部

インターハイを終えて



「2日目(ベスト64/320ペア中)に残る」という目標を立て、県外強豪校との練習試合を含めて強化策を講じてきたが、目標が達成できずに指導力不足を痛感した。

②出場選手への労い

3年生の大内君は、特に同級生を纏めるのに苦慮する中で自分の成長に悩み、それでもコツコツと努力してきた。その取り組みを見ていた後輩には大きな影響を与え、地道に取り組むことの大切さを残してくれた。



この経験を今後の会社生活、または人生で活かして欲しい。「インターハイに出場した」ということは誰もが経験出来ることではないので、大きな自信にしてほしい。

前号で結ばせていただいた顧問・豊田氏による『インターハイに繋がる取組』と述べられていたが、それが現実となった。

8月2日から香川県にて開催された今大会は、男子個人戦での参加のみで新型コロナウイルスの影響により残念ながら完全有観客とはならなかった。

大会の結果は滋賀・綾羽高校に1対4と惜敗したが、それほどまでに全国の壁は高く、今後の取り組みにも力が入ることであろう。

豊田顧問

①インターハイの感想

本間君は2年生なので、来年またインターハイに連続出場を達成して欲しい。先輩と組み、試行錯誤しながらプレイについて意見を交わし合った経験は大きなものなので、それを今後の新チーム作りを活かしてほしい。

③今後の取組について

新チーム発足にあたり、「インターハイ出場を経験した選手がい

ること」「インターハイに帯同して見聞を広げてきた選手がいること」「団体戦で2大会連続県大会3位を経験した選手が複数いること」が大きい。

「自分たちで考えてチーム運営をする」という部分をきちんと設けていきたいと考えている。

生徒たちと課題を共有し考え、試行錯誤しながら本校なりの「執着心」の育み方を作っていきたい。

この「執着心」は、将来の仕事においても「こだわり」や良い意味での「頑固さ」「やりきる力」につながると思う。

新チームの目標であるそれぞれが「自分の立てた目標達成のため」に精一杯努力できる人になること」を実現できるよう指導していきたい。

大内主将

①インターハイの感想

全国大会はテレビや動画配信、違う世界の出来事のように実感が湧かなかつた。しかし、その不安は早い段階で吹っ切れることが出来、『や



つてやる

！』という想いに変わった。

②ペアの本間選手について

短い期間でのペアではあったが自分のポテンシャルを最大限に引き出してもらえ仲間であったと思う。

年下ではあるが先輩後輩という間柄を超えて互いに高みを目指し合えるパートナーであった。

③後輩へのエール

プレイ以外の行動や判断力をさらに身に付けてほしいと願う。強豪校に共通していることの一つに動きの機敏さが挙げられる。練習だけでなく、時間、整列、挨拶等の行動面にも重きを置くこと。

新部長に関しては『良いことも悪いことも言い合える』チームを目指してほしいと思う。

本間選手・新主将

①インターハイの感想

自分の目標にしていた大会に出場出来た嬉しさと、もっと出来たのではないかと悔しさが残る大会であった。



同時に人間的に足りていない部分を知ることができた。インターハ

イに出場するだけでなく、インターハイで勝ち続けることが出来る選手になりたいと思った。

②ペアの大内主将について

互いに切磋琢磨出来る素晴らしい先輩でした。テニス以外の部分についても自分を引っ張ってくれる頼りがいのある先輩である。

③新主将として今後の抱負

皆の手下となるよう、人間的に成長したい。前回の大会以上の結果が出せるよう団体・個人共にインターハイを目指して取り組んでいきたい。

豊田顧問に対しては、今まで以上に指導をいただくことになると思うが自分の為、チームの為にもしっかりお願いしたい。

この夏にインターハイ出場というかけがえのない経験を、後を引き継ぐ部員たちには、新生ソフトテニス部として、今後に期待したいと思う。

年代を超えて『熱く』なるものがOBの我々にも果たしてあるだろうか？まだまだ後輩たちに負けていけないと強く感じた。

鈴木 光彦(78卒・日高)

